

鹿児島医セン

連携室だより

2008.7 No.28

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

緩和ケア専従看護師になって

緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、疾患の早期より痛み、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな（霊的な・魂の）問題に関してきちんとした評価をおこない、それが障害とならないように予防したり対処したりすることで、クオリティー・オブ・ライフ（生活の質、生命の質）を改善するためのアプローチである。」と、2002年にWHO（世界保健機関）によって定義されています。身体的問題とは、痛み・全身倦怠感・嘔気嘔吐・腹部膨満感・呼吸困難感などといった身体的な苦痛であり、心理社会的問題とは、不安・抑うつ・せん妄といった精神的症状や家族背景や役割機能の低下・経済的な問題を意味しています。またスピリチュアルな問題とは、自己の存在の消滅を恐れたり、存在の意味を失ったり、虚しさを感じる苦悩だと言われています。これらは、あらゆる診療科のあらゆる経過の段階の患者さんが感じる苦痛・苦悩であり、緩和ケアは普遍的なケアであると言っても、過言ではないでしょう。

現在では緩和ケアの広がりによって、「ホスピスや緩和ケア病棟」だけではなく、一般病院や在宅などでも受けられるようになってきました。当院も2007年4月より施行されたがん対策基本法に基づき地域がん診療連携拠点病院として指定を受け、機能を果たすべく努力しているところです。拠点病院の条件としてはいくつかありますが、がんの患者さんとその御家族に良質な緩和ケアを提供するために、緩和ケアチームが設置されています。医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士といった多職種スタッフで構成されたチームで、それぞれの専門性を活かし刺激し合って、患者さんと御家族のQOLの向上を目指すことを目標に、院内の活動を充実させようと現在頑張っています。スタッフの皆様からの依頼をお待ち申し上げております。患者さんが「がん」と診断されたその時から、緩和ケアは必要とされます。しかし、まだまだ「緩和ケア」=ホスピス、ターミナルケアという意識が根強く残っていて、なすべき治療法が無くなったときにギアチェンジすることだと捉えられているのではないかと、思われることが多くあります。急性期の病院だからこそ、治療を行っている最中より、自分はどのように生きていきたいのかを話し合いながら、意思決定を促していくことが当院における緩和ケアの在り方なのではないでしょうか。



緩和ケアチームラウンド

「紫陽花が見たいな」と言われた患者さんがおられました。次の勤務日に庭に咲いていた紫陽花を持っていくと、前日にお亡くなりになっていました。彼に紫陽花をお見せできなかったのは非常に残念でしたが、希望を支えたいと願い行動することの大切さを学ばせていただきました。私は、緩和ケアとは「その人がその人らしく生きていくためのケアである」と考えています。専従看護師として、緩和ケアチームの一員として、一人でも多くの患者さんの生きるサポートをさせていただきたいと思っております。まだまだ駆け出しで余裕も実力も無く、皆様に助けられながらの活動となっておりますが、どうか気軽に何でもご相談ください。小児科外来横の「相談室」にて、お待ちしております。

（緩和ケア認定看護師 西 里佳）

脳卒中市民シンポジウム

新聞、TVなどでも報道されましたのでご存じの方も多いかと思いますが、去る5月31日(土)、第11回脳卒中市民シンポジウムが、かごしま県民交流センターで行われました。これは日本脳卒中協会の主催で、毎年脳卒中週間にあわせて各県持ち回りで行われているものです。一昨年は北海道、昨年は高知県が当番でした。今年は鹿児島県が当番で、当院が日本脳卒中協会の鹿児島県支部となっている関係上、当院が世話役となって行われました。

当院でも平成15年以来毎年脳卒中市民講座を行ってきており、今回は当院の第6回脳卒中市民講座を兼ねて行いました。

一般市民を対象として、広く市民に脳卒中の知識を普及させ、脳卒中の予防、早期治療への理解を深めることを目的としたものです。

今回は、「ナマ・イキVOICE」で有名なKTSアナウンサーの中西真貴さんによる「体験記優秀作品朗読」に引き続き、第1部の講演を「脳卒中力をつけようー予防・超急性期治療からリハビリまでー」というテーマで、有田和徳鹿大脳神経外科教授と、有村公良鹿大神経内科准教授による座長の下、

1. 予防・・・・・・・・・・神田直昭先生
(鹿児島医療センター脳血管内科医長)
2. 内科的治療・・・・・・・・松岡秀樹先生
(国立循環器病センター)
3. 外科的治療・・・・・・・・今村純一先生
(鹿児島医療センター脳神経外科医長)
4. 血管内治療・・・・・・・・永山哲也先生
(鹿大脳神経外科講師)
5. リハビリテーション・・川平和美先生
(鹿大リハビリテーション科教授)

に関する講演が行われました。

休憩を挟んで、第2部のパネルディスカッションでは、「かごしまの脳卒中力」というテーマで、上津原甲一鹿児島市立病院長と濱田陸三鹿児島



医療センター脳血管内科部長がコーディネーターとなって、以下のパネリストによる発表が行われました。

1. 行政の立場から・・・上床太心先生
(鹿児島県保健福祉部障害福祉課技術主幹)
2. 消防の立場から・・・古垣成夫先生
(鹿児島市消防局)
3. 鹿児島市内の現況・・平原一穂先生
(鹿児島市立病院脳神経外科部長)
粕谷潤二先生
(厚地脳神経外科病院)
4. 北薩地区の現況・・時村洋先生
(川内市医師会立市民病院脳神経外科部長)
5. 大隅地区の現況・・新名主宏一先生
(肝属郡医師会病院神経内科部長)
6. 離島の現況・・川添一正先生
(鹿児島赤十字病院脳神経外科部長)

各パネリストともに熱のこもった発表をいただき、ディスカッションの時間がほとんどとれないほどでしたが、皆最後まで熱心に聞き入っていました。

今回は事前に申し込みが必要で、公式発表では550名の参加となっていますがほとんど空席もなく実際にはもっと入っていた印象でした。

(脳血管内科部長 濱田陸三)

登録医医療機関紹介 第14回

黒岩内科

皆様こんにちは。日置市伊集院町で黒岩内科を開業しています。平成元年4月に黒岩眼科と同時に開業し、もうすぐ20年になります。内科の職員は、看護師10名、事務系5名、厨房4名、管理栄養士1名です。思い出といえば鹿児島大学旧2内科循環器グループに入って間もなくの頃です。医者になりたてで増長していた私は、部下の先生を見下すような言葉を言い、当時グループ長だった中村一彦先生(現鹿児島医療センター院長)にひどく怒られた事を思い出します。中村先生から、「人間は皆平等である。」医局では先輩が偉いわけでもなく、診察室では医師と患者さんは対等であり、病院内では医師も職員も皆平等と、常に教えられました。それを忠実に守り、今では、当院の職員に怒られればなしです。開業して20年にもなると、毎年のように変わる医療システムに、四苦八苦しながら、古い知識と脳の動脈硬化と、そのうち自分も認知症になるのではないかという不安に苛まれながら、仕事をしてあります。近頃の悩みは、検査をすれば患者さんに金銭的負担がかかり、検査を怠ると病気を見逃す確率が高くなるのでどうしたものかと思案しながら診療しています。現在唯一誇れるのは、毎年秋に隣の眼科と合同で、各セクションから演題を出して院内研究発表会を行い、みんなで研鑽を重ね今年で20回目を迎えます。今後継続したいと思っています。これからも、どうぞよろしくお願いします。

院長 黒岩宣親



研修医 紹介

研修医



はら かなこ
原 加奈子

平成20年に産業医科大学を卒業し、4月1日より当院で研修させていただくことになりました。働き始めて2ヶ月たち少しずつ病棟業務に慣れ周りをみる余裕もできました。

また、日々学ぶことが多く刺激的な毎日を送っています。未熟な点も多くご迷惑をかけることも多いと思いますが、頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

研修医



やまさき よういち
山崎 洋一

平成20年に鹿児島大学医学部を卒業し、4月より当院にて研修医として勤務させていただいております。いろいろご迷惑をおかけしておりますが、これからもよろしくお願ひいたします。

研修医



たちばな ようすけ
橋 陽介

鹿児島医療センターで研修を行って3ヶ月になりますが、非常に楽しい毎日です。たくさんの仲間にもまれて非常に刺激的な研修生活ですが、諸先生方の中で医療の現実を学び、少しでも自分の理想の医師像に近づけたらと考えております。





研修医

かとう あやみ
加藤 絢美

鹿児島大学医学部を卒業し、初期研修医として、鹿児島医療センターにて平成20年4月より勤務させていただくことになりました。

これから2年間多くのことを学んでいきたいと思っております。

ご迷惑をお掛けすることも多いと思っておりますが、ご指導の程よろしくお願いたします。

忙しくも充実した日々の中で、先生方を始めスタッフの方々に丁寧にご指導頂き、医療センターを研修先に選択して良かったなと実感している毎日です。今後も様々なことを積極的に吸収していこうと思っております。ご迷惑をお掛けすることばかりだと思いますが、何卒宜しくお願申し上げます。



研修医

むかい ふきこ
向井 路子

平成20年に鹿児島大学を卒業し、鹿児島大学の研修プログラムで1年間医療センターで研修させていただいております。4.5月で泌尿器科を回らせていただいて、今は脳神経外科を回らせていただいております。4月から働き始めたばかりで、ご迷惑をおかけすることも多いと思っておりますが、宜しくお願致します。



研修医

たびら たつりのり
田平 達則

平成20年に鹿児島大学を卒業し、4月から鹿児島医療センターで研修させていただくことになりました。先生方の温かいご指導のおかげで楽しく勉強させてもらってます。まだまだ至らぬ所ばかりでご迷惑おかけすると思っておりますが、よろしくお願いたします。



研修医

かねこ ひとみ
金子 ひとみ

平成20年に鹿児島大学を卒業し、この度同年4月1日より研修医として勤務させて頂くことになりました。まだまだ分からないことが多く、周囲の皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかと思っておりますが、精一杯頑張りたいたと思っておりますのでよろしくお願いたします。



研修医

さいとう けんた
齋藤 健太

平成20年鹿児島大学を卒業し今年から鹿児島医療センターで研修させていただいております、齋藤健太です。研修一年目なので何もわからずご迷惑を多々かけるかと思っておりますが少しでも早く先生方のお役にたてるようがんばりたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。



研修医

しげはたけ ゆうや
重 裕也

平成20年に鹿児島大学医学部を卒業し、この春より当院研修医として勤務させて頂いております。



研修医

よしもと いっせい
吉元 一成

平成20年に鹿児島大学を卒業し、鹿児島大学の研修プログラムにてこの度一年間働かせていただくことになりました吉元一成と申します。研修プログラムの病院内で特に、循環器疾患、脳卒中について勉強したいと思っております。医師として4月に働きはじめたばかりで、なにかとご迷惑をおかけすることもあるかと思っておりますが、どうかよろしくお願いたします。

お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
 (代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
 脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、吉留、善福
 直通電話 ▶▶ 099-223-4425
 フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
 ※休日・時間外は当直者で対応します。

